

伊東市 赤沢地区協議会 WS資料

【1・2グループ】

開催日	H27.5.14地区協議会	H27.12.9地区協議会(今回)	
分類	意見	考えられる対応策	意見
堤防整備 (津波)	津波による河川の逆流も考えておく 堤防より引越し	・L1の津波高による、住居地区 への浸水は少ないことが想定さ れています。	5.5m(現況) 2名 6.5m 2名 階段部のところのあきがある 川のそ上対策が必要 既設堤防が40年以上経っており耐久性が不安 <b>高くしたい</b> <b>川に沿って作ることはできるか(左岸を嵩上げて欲しい)</b> <b>景観を重視するか</b> <b>安全を重視するか</b> <b>かさ上げの必要あるか</b> L1 3名 人家が守れる区間で 現況のまま 2名
山を確認す る	旧道下のガケが心配 コミセンも安全か？ 向い山の山崩れにより学習会館が使用できない時、国道 沿いでDHC側に逃げる 家等が倒壊するかも 高い所へ行く為には、坂を上っていかないとけない	(県)(市) ・砂防事業、急傾斜地崩壊対策 事業の活用 ・土砂災害防止法による区域指 定、警戒避難体制の整備	
避難場所 (高台へ避 難)	赤沢会館に向かって逃げる 赤沢会館へ向かう 会館方向に逃げる(静かになつたらすぐに) ガケ崩れを 考えて道を選ぶ 大きな声を出し、上の方に向かう 歩道は山側がありあぶ ないので、国道に出ると思う 国道方面に向かって逃げる 135号の道に早足で浮山の方に逃げます 国道を目指して逃げる 自分の事は自分で守るしかない、国道を走るしか ないですよ 高台を目ざしすぐ行動 上の山へ 高台へ避難 とにかく高い場所に避難する 少しでも高い場所に逃げる 津波の来る事を声をかけながら、学習会館へ避難する 海で泳いでいる方に声を掛けてから、自分は逃げます コミセンに行くより上のゲートボール場に行った方がよい と思うが、私は行けるが年寄りには行けないと思う	・自主防災会ごとに津波避難行動 計画の作成をお願いしています。 ・今年度中に、津波ハザードマ ップを配布する予定です。避難場所 までの避難経路について、自身で シミュレーションしておくことが重 要です。 ・大地震が発生した後しばらくは 余震が続くことが予想されますの で、余震によるブロック塀等の倒 壊にも注意が必要です。	川の橋の下、国道橋の断面がせまい
避難路	ルートによって通れなくなるかもしれない(狭い道) 避難 ルートは広い道を考えておく 高台への道は確保出来るのか 赤沢会館に行くルートに土砂くずれがあるかもしれない 赤沢川を津波が上って来る高さ？ 避難路の崩壊 電柱等の倒壊 崩落の危険を観察する 逃げ道の安全を確かめる		夜、避難路がわかるような灯り 子どものおくりむかえの際など・・・どの道が通れるのか 災害時の道路状況を分かりやすくして欲しい
事前対策	駐車場から逃げる道が細い?? 逃げる時間4分程でどこまで行けるか 逃げる場所(安全な場所)の把握		家の中の安全を確保 懐中電灯の準備 停電に備えて太陽光のライトが欲しい 擁壁のない区間が崩れると怖い
津波後、身 辺を確認	身の廻り及び地区内の被害確認にて逃げ道を考える 身内へ連絡 揺れが止まると同時に家族の確認 非常用品持ち出しにて家を出る		
情報	津波の知らせを会館に来て放送する 赤沢区の連絡する連絡網 どこが安全なのか情報がない不安 津波は来るのか 逃げる時間はあるのか どこまで逃げれば安心なのか不安 高齢者世帯への気づかい 逃げ遅れの人がいるか見てまわる どこにどうの方が住んでおられるか となり近所の人に声をかける	・Jアラート、同報無線、メールマ ガジン、ラジオ等により情報収集 をしてください。 ・発災直後は、自助、共助が必要 となります。 ・家族、ご近所等で、あらかじめ 地震発生時の行動を話し合っ ておくことが重要です。 ・安否情報は「災害用伝言ダイヤ ル1711」を活用してください。	
町内放送の 改善	放送内容が聞き取れないことがあるので、サイレンなどに 変更する。		NTT非常電話を入れる 放送を使う
避難方法の 補助	地域に合った避難方法の検討 エスカレーター等考える		
避難に対し ての注意	火を止めて安全な場所に逃げる		
避難後の生 活	直後の避難生活		
第2避難を 考える	海岸に近い家の人は小浦道方向に逃げる！		